

M式農場における有機培地利用高糖度とまと栽培事例報告！

昨年(11月)M式たより(第48号)にて、N農園の高糖度とまと栽培への取組み事例を紹介させていただきましたが、今号は、M式農場における有機培地利用高糖度とまと栽培への取組みを紹介します。

弊社はかねてから有機培地水耕のネーミングで培地活用し、水耕方式とは、また違った品質の物作りができるプラント開発を手がけてきており、このたよりでも何回か紹介をいたしました。最近では作目をとまとに焦点を絞って農場で栽培試験を継続してきております。これらの経過から、農場経営としてメリットのある作型となりうるの感触を得ており、近時実証規模に展開する予定です。

この栽培システムは、培地をポットに充填し、間欠底面灌水方式で肥料供給するもので静岡のT農園、神奈川のN農園さんなどです。実践されている手法と同じですが、弊社のものは培地に工夫をしています。高糖度をねらうなら基本的にはいじめて作るわけですが、そのいじめ方が栽培のキーポイントとなり、さらに突き詰めて考えると培地の保水特性が、それを左右することになります。植物の状態を見て灌水量が加減でき、それが直ちに植物側に反映できるリアルタイム調節が可能なシステムが理想的と

なります。保水性が良すぎると根圏は過湿状態となり病気、生理障害要因となったり、低糖度側に移行したりと、栽培管理が複雑になったり、結果として樹をいじめ過ぎた物作りしかできないなどの状況を招きます。適切な保水性培地の場合は、しっかりとした樹作りと玉作りの相反する特性の最適バランス点を見つけやすく、失敗の可能性を少なくすることができます。弊社の培地は、木材チップを堆肥化させたものに、炭を混入させたもので、これら培地特性の最適化を図っているのが特徴です。すでに4作の結果から、概ね以下のような運営が可能と判断いたしております。

植付株数	3,500本 / 反
収 穫	4段栽培、4玉 / 段
平均重量	80g / 玉
収 量	13t / 反

4段栽培ですので、年間3回転でき売価を800円 / kg(年平均)としても反あたり10,000千円の粗収入が見込め、経営的にやっつけられる目処がたっております。糖度は年間平均して一段目から8.5以上確保できていること、培地の効果でコクがあると評価されています。農場へ見学にぜひ一度お出かけください。(営業部 神谷高裕)



定植直後



着花段階



色づき直前



一段目収穫

恒例のみつばの日(3月8日)取組み各地で展開される！



大分

彦根

今年も「みつばの日」にちなんだ取

組みが各地で展開されました。昨年度全国水耕みつば生産者振興会が組織されるに伴い、みつばの日行事の旗振り役を弊社から振興会へシフトしました。そんな関係で会員には配布用チラシなどが配布されましたが、会員以外の生産者から弊社に数多く問い合わせ、チラシの配布要望などが寄せられ、体制変更連絡が不徹底で混乱を招いたことをご詫言ひ申し上げます。こんなことにもかかわらず、各地では様々な取組みが行われました。

そんな中から2例を紹介します。日本農業新聞で紹介されましたが大

分市農協みつば部会では、学校給食にも提供されみつば入り肉うどんとしてふるまわれたとのこと。いいアイデアですね。また愛知経済連では、あまグリーン水耕みつば部会の協力でスーパー(彦根平和堂、伊丹九州屋)で販売員をたててみつばのPRを実施したとのこと。みつばの日の取組みも定着してきた感がありますが、いかに販売をしていくか、地域とどう共存していくかは発展のキーワードです。振興会では土用の日など、年間何回かこういう働きかけを考えていきたいとのこと。 (編集子)